報　　告　　書

<table>
<tr><td>開 催 日 時</td><td colspan="4">令和８年２月 24 日　　19 時 00 分　～　20 時 15 分</td></tr>
<tr><td>自治協議会名</td><td colspan="2">山田地域住民自治協議会</td><td>開 催 場 所</td><td>山田地区市民センター</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席議員</td><td colspan="4">寺村京子、北山太加視、上田宗久、陶山美佐、福岡正康、桃井弘子</td></tr>
<tr><td>班 長</td><td>寺村　京子</td><td>記録・報告者</td><td>寺村 京子</td></tr>
<tr><td>参加人数</td><td colspan="4">27　名</td></tr>
</table>

【主な意見・提言等】

＜複合化施設について＞

・予定地の底地取得について、５千数百万円の予算が承認されたが、交渉が継続中で繰り越しになる見込み。

・底地がしっかりしない中では保健センターへの移転も難しい。地権者から更地返還を求められる懸念がある。

・農村環境改善センターを解体すると莫大な経費と年月がかかる。その間に大きな地震が発生した場合、現施設が大丈夫か懸念される。既存建物活用の方が早い。

・青山は旧町役場を芝生化して整備した。大山田の旧村役場と農村環境改善センターを早く解体し、イベントができる広場にして地域活性化に寄与できないか。

・農村環境改善センターのホール部分は吊り天井で使用できない状態。会議室のみ使用可能。

・複合施設の計画で農村環境改善センターを解体する方針があるが、ホール機能の代替として大山田産業振興センターのどんぐりホールを活用したい。しかし雨漏り等の不具合があり、民間施設のため市が改修予算をつけられていない。

・農村環境改善センター大ホールは災害時の緊急避難所に指定されているが、天井が落ちる危険性がある。住民の命を守る大きなホールとして大山田産業振興センターの活用を検討してほしい。

＜診療所について＞

・現在阿波診療所は稼働中だが山田診療所は休診中。レントゲンも使用不可能な状態。

・阿波診療所の医師が３年後に定年を迎えるため、診療所継続が課題。国保特別会計で赤字が大きく、市も継続に消極的な面がある。

・診療所の累積赤字２億 6,000 万円は阿波診療所だけの問題ではなく、過去の複数診療所の赤字の累積。

・大山田地域には公的診療所が必要。毎日でなくとも週２～３回、午前中だけでも市民病院等から医師を派遣できないか市と交渉中。

・訪問診療も実施しており、高齢化が進む山間地域では診療所の存続が重要。

＜公共交通について＞
・４年後に三重交通の路線バスが廃止される予定。どんぐり号を１台増やしてほしいと市と交渉中。
・朝は高校生の乗車が多く、50 名ほどがバスを利用している。朝夕は大きいバスが必要だが、昼間はデマンド交通での対応も検討できる。
・過疎地域のデマンド交通や無人バス運行など、他地域の事例を参考に具体的な提案をしてほしい。
・小学校６年生との意見交換会でもバスの話題が出ており、４年後には彼らが高校生になるため、子供たちからも意見を聞いて地域としてのバス運行要望をまとめたい。

＜産業廃棄物最終処分場建設計画反対運動について＞
・市長は裁判も辞さない姿勢だが、具体的な対策が見えない。水道水源保護審議会は開催されているが、農業用水については市の対応が見えない。
・ＪＡも反対旗を立てるなど動き出している。保育園、小学校、中学校にも反対要請を行った。
・産廃反対運動は意見書だけでなく、地元の反対運動で事業者に強く働きかけることが重要。５～６年のうちに結論を出す必要がある。
・大山田だけでなく伊賀市全体、できれば名張市も含めた広域での反対運動が必要。
・法律に基づいた手続きであるため、事業者との意見交換で適法でない点を発見し、県の審査時に指摘する戦略も重要。
・他地域への説明や署名活動など、段階的に反対運動を広げていく必要がある。
・議会として反対決議を出すことで、市長、県知事、国への強いメッセージとなる。

＜その他＞
・使用していない公共施設の書類保管について、データ化を含めた管理方針を市に示してほしい。
・廃止が決まった建物は早期に解体すべき。維持費がかかり、管理も不十分になる懸念がある。
・令和８年度以降も議員との意見交換の場を継続したい。

伊賀市議会議長　様

令和８年５月１日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和７年度 地域意見交換会　　３　班

班長　寺村　京子